

科目名	言語教育学特講	担当者	オオカワ 大川 ヒデアキ 英明	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では第二言語習得研究における語用論と中間言語に重点を置いた研究成果に関する理解を深め、更に応用する能力や考察する能力を養うことを目的とする。中間言語語用論や異文化間語用論の研究は語学指導に直接的に関連のある多くのテーマを扱っているものの、このような研究の結果が必ずしも語学教育に体系的に組み入れられてはいない現状がある。このような乖離を縮める教材について理解することにより、語用論や中間言語の枠組みからの第二言語習得の研究への可能性を考える。</p>		
到達目標	<p>語用論的指導や学習に関する基礎知識の理解から始め、言語と文化の関連事項を含め、語用論的な指導に関連する中心的な事項を学び、実践での活用を目標とする。また、語学の教科書を語用論の観点から評価し、教材に加筆する方法や、教科書を補うための語用論的指導の考案についての理解を深める。更に、中間言語語用論で用いられる研究方法を把握するとともに、語用論的能力の習得・発達や評価の問題について学び、言語教育にその知識が生かせるようになることを目標とする。</p>		
学修方法	<p>①教材の内容を十分理解し、語用論、中間言語語用論の考え方を把握するとともに、実際の言語教育への応用を念頭にレポート課題に取り組むこと。 ②レポートは理解から分析へと移行していくので、最終レポートを目指して、理解、考察、分析、まとめる能力を磨いていく。 ③語用論・中間言語語用論に関係する論文、書籍は数多く公開されているので、これらの論文を読むように努める。</p>		
スケジュール	<p>【前期】 レポート課題1 締切： 6月15日 レポート課題2 締切： 8月31日 【後期】 レポート課題1 締切： 11月15日 レポート課題2 締切： 学事暦記載の課題提出締切日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	1) 教材の理解度 2) レポートの構成 3) 論理的展開 4) 分析力 5) 学術論文としての体裁が整っているか
	平常評価	20%	1) 課題への取り組み 2) 学習姿勢 3) 質疑応答の内容
履修者への要望	<p>①大学レベルの言語学を履修しているか、またはそのレベルの知識があることを前提とする。特に、音声学、音韻論、語彙論、統語論、主な言語理論、社会言語学等の基礎的な知識があること。 ②履修を考慮中の段階でも、レポートの書式などの情報を送るので、できるだけ早く担当教員に連絡をする。 ③研究論文を選択する際に、選択が許容範囲かどうか確信がない場合には、教員に相談すること。 ④本講座は語用論や中間言語語用論の理解から始まるが、特に後期には言語現象、語学教科書、論文に関して考察、分析が必要になるので、それを目指して、教材をと理解し、応用を考えていって欲しい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 石原 紀子【編著】・コーエン, アンドリュウ・D.【著】 教材名： 『多文化理解の語学教育—語用論的指導への招待』（研究社, 2015年） ISBN:978-4-32-737738-0 3,500円+税
	本書は語学教育における語用論の理論と実践を結びつける試みを目指している。多文化間コミュニケーションに必要な能力として語用論の能力があり、語学教育でもその重要性が唱えられている。本書は語用論や第二言語習得理論の紹介にとどまらず、理論を言語指導の実践に取り入れる具体的な指導法を提案している。
参考図書	今井邦彦『語用論への招待』（大修館書店, 2001年） ISBN: 978-4469212648 2,200円+税
履修上のポイント	教材を読むことにより、語用論の基本的な概念を理解し、第二言語習得における応用性を理解することに努める。また、教育現場への応用、教科書への応用等も学ぶことになる。前期の取り組みは年度後期のレポート作成の準備となるように基礎を築くとともに、興味のある話題の論文を探し始めることを希望する。
レポート課題 1	①語用論の基礎を理解するために次の英語による URL での説明を自分の言葉でまとめなさい。（日本語で2,500字程度） http://www.ling.upenn.edu/courses/ling001/pragmatics.html （掲載されなくなった場合は講座担当教員にファイル送付を依頼すること。） ②これに加えて、教材の第Ⅰ部（第1章～第5章）を読み、著者の説明や主張の要点を自分なりの解釈をもとに自分の言葉で説明しなさい。（3,000～4,000字） 留意点： ①は直訳は不可。自分の解釈、表現でまとめること。②に関して、特定の研究について言及したり、論じたりする時に元の例文が必要になる場合を除き、説明のための例文は自分が作ったものも含めること。
レポート課題 2	教材の第Ⅱ～Ⅲ部（第6章～第12章）で扱われている内容に関連する研究論文の一つを選び、その主張の要点を自分の言葉で紹介しつつ、自らの批判や反論を提示し、さらに改善案を説明しなさい。（3,000～4,000字） 留意点： 研究論文は学会誌、大学・研究機関の紀要、等に掲載されている論文で10ページ程度のものを選ぶこと。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には、PDF化してレポートとともに提出すること。論文の選択に不安がある場合は担当教員に相談すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 清水 崇文 教材名： 『中間言語語用論概論—第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』（スリーエーネットワーク, 2009年） ISBN:978-4-88-319513-8 2,000円+税
	本書は「語用論」の諸側面に焦点を当て、中間言語語用論の様々な研究によってこれまで明らかにされてきた成果を整理している。実際に言葉を使う状況や場面、相手との人間関係などに照らして適切な言い方で話せる能力に関する「中間言語語用論」について研究成果をまとめ、さらに教育への応用の仕方を提示している。
参考図書	今井邦彦『言語理論としての語用論』（開拓社, 2015年） ISBN: 978-4758925501 1,900円+税
履修上のポイント	前期の知識を基に、中間言語語用論で用いられる研究方法、特にデータ収集の方法や異文化間語用論、理解と産出の両側面から学習者の語用論的知識の使用、語用論的能力の習得・発達、等について学ぶが、レポートは基本を押さえた上での分析が必要になるので、応用を意識しながら教材を学ぶことが肝要である。
レポート課題 1	第二言語学習者のための語学の教科書を選び、語用論の成果を生かした具体的な改善案を提案しなさい。（3,000～4,000字） 留意点： 分析対象の教科書は日本語学習か英語学習用とする。分析対象のページ数が多くなければ、PDF化したものも提出すること。
レポート課題 2	基本教材2で扱われているテーマの研究論文を選び、その主張の要点を自分の言葉で紹介しつつ、自らの批判や反論を提示し、さらに改善案を説明しなさい。（3,000～4,000字） 留意点： 研究論文は学会誌、大学・研究機関の紀要、等に掲載されている論文で10ページ程度のものを選ぶこと。扱う論文がインターネットで公開されていない場合には、PDF化してレポートとともに提出すること。論文の選択に不安がある場合は担当教員に相談すること。